

## UNDB-J ロードマップの概要

## 1. ロードマップ作成の経緯

- ・平成 27 年に（2015 年）11 月に「国連生物多様性の 10 年」の折り返し年を迎えるにあたり、UNDB-J のこれまでの成果と課題を中間評価としてとりまとめ。

## &lt;UNDB-J 中間評価の概要&gt;

- ・これまで各構成団体がそれぞれの立場で生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取組を推進してきており、着実な成果を上げてきた。
- ・一方で、「生物多様性」の言葉の認知度が低下しており、現状の取組を続けるだけでは愛知目標 1 に掲げられた、2020 年までに「人々が生物多様性の価値と行動を認識する」を我が国で達成することは困難。
- ・今後、セクター間の連携の強化、構成団体以外とも連携した取組の展開といった方向性のもと、ロードマップを策定し取組を進めていく。

- ・中間評価結果を踏まえて、主流化の取組をさらに加速するために、UNDB-J 及び委員の 2020 年までの目標と具体的な取組をまとめたロードマップを平成 28 年 10 月に作成。

## 2. ロードマップの構成

## ・本文

はじめに（UNDB-J のこれまでの取組の経緯、社会的背景と UNDB-J の役割）

I. 目指すべき社会像

II. 目指すべき社会像に向けたステップ

III. 目指すべき社会像に向けた取組の方向性

IV. 目指すべき社会像に向けた具体的な取組

## ・別紙 1：UNDB-J の取組

## ・別紙 2：構成団体による取組

## ・別紙 3：構成団体の連携による取組

（別紙 2 の取組から構成団体内外の連携した取組を抽出したもの）

## ・参考 1：UNDB-J 及び構成団体の取組（別紙 1 及び別紙 2）のうち、指標を設定している取組の最新値及び目標を整理した表

## ・参考 2：UNDB-J 及び構成団体の取組（別紙 1 及び別紙 2）の個票